



田中



栃尾

山口

こんにちは。東京大学附属病院研修医2年目の田中恵理と申します。東京生まれ・東京育ち、大学病院で研修していた私にとって紀南病院での研修はワクワクドキドキの冒険でした。電車にゆられること6時間半。阿田和駅を出てすぐ目に飛び込んできたのは、ターコイズブルーと藍色の2層に色づいた広ーい海！水平線！なんて素敵なところに来たのだらうと思いました。ここでの研修はそれはもう、がつんと頭を殴られたような衝撃で、自分の甘さを痛感し、無知さ至らなさにへこんだことも多々ありますが、それでも前向きに進もう・進まなきゃと思わせてくれる温かさ・明るさ・懸命さがこの病院にはありました。この病院を地域の最後の砦として強い自負をもって熱心に診療されている先生方・温かくサポートして下さる医療スタッフの方々・研修を支えて下さる総務課の方々・笑顔で迎えて下さる患者さん・ご家族...この病院にみなぎるパワーを感じました。この病院で研修させて頂き、与えていただいたもの大きさに感謝の気持ちでいっぱいです。私もこの病院の先生方に少しでも近づけるように精進いたします。本当にありがとうございました！

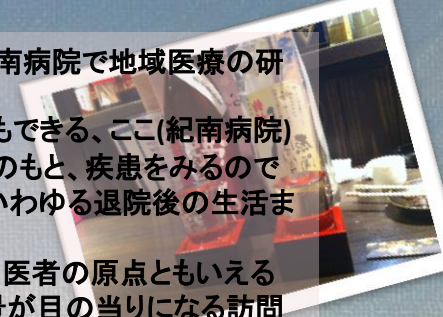


鈴鹿中央総合病院の栃尾智正です。紀南病院で地域医療の研修をさせていただきました。

内科研修では、急性期の勉強はいつでもできる、ここ(紀南病院)でしか学べないことを学べ！という言葉のもと、疾患をみるのではなく、患者様の生活背景・環境など、いわゆる退院後の生活までを含めた診療を学びました。

また、そのような病棟の業務だけでなく、医者の原点ともいえる地域の診療所研修であったり、家族背景が目当りになる訪問看護など、さまざまな地域における医療というものを、目で見て、肌で感じ、実践させていただきました。

1か月という非常に短い期間で、正直学び足りないと思う気持ちが大ですが...紀南病院で学んだことを、今度も生かしていける医師になりたいと思います。ほんとうにありがとうございました。

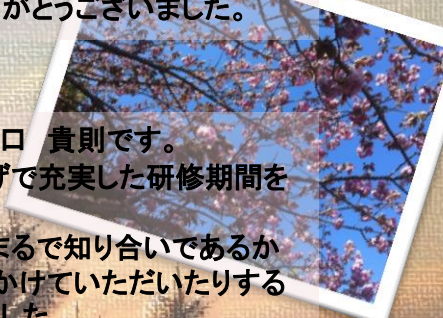


三重大学医学部付属病院 研修医 山口 貴則です。

短い期間でしたが、みなさま方のおかげで充実した研修期間を過ごすことができました。

患者や医療スタッフといった垣根なく、まるで知り合いであるかのように挨拶をしていただいたり、声をかけていただいたりする地域の人々の温かさを実感する毎日でした。

医局が一つの部屋にまとまっていることもあり、医師同士も科の垣根なく、患者についてコンサルテーションし合ったりして、この地域に住む患者のためという同じ目標に向けて尽力している姿を度々眼にすることができました。本来の医療の形を垣間見ることができたのでないかと思います。今後、専門分野に進んでいっても、そのような気持ちを持ち続けていきたいです。一か月間本当にありがとうございました。



研修医通信

Vol.33

2013年4月号
(平成25年4月26日発行)

